

わ

が

街

わ

が

故

郷

株式会社 藤野鉄工所 三重青山工場とその周辺

会社紹介

当社は1946年（昭和21年）3月、三和産業有限会社の社名にて自転車部分品の製造を目的として創業。1955年（昭和30年）10月、自転車部分品の製造を暫時縮小し、現在の株式会社藤野鉄工所で、ボールベアリングの製造販売を始めました。1969年（昭和44年）10月、三重県伊賀市（旧青山町）にて、三重青山工場の操業を開始しました。

今日の多様化ニーズの要請として、少量多品種化を求められ、止まらぬ高精度への要請に応えるべく、フレキシブル生産設備と総合技術挑戦力によって日々新製品を生み出し、明日への貢献をめざしております。

伊賀市の紹介

2004年（平成16年）11月に青山町、阿山町、伊賀町、上野市、大山田村、島ヶ原村の6市町村が合併し、東西30km、南北40km、総面積558km²と、県下で3番目に広い伊賀市が誕生しました。三重県の北西部に位置し、京都府、滋賀県、奈良県に接し、近畿圏、中部圏の2大都市圏の中間に位置することから、「三重・畿央地域」として首都機能移転候補地に選ばれております。

伊賀市は、古くから京都・奈良と伊勢を結ぶ大和街道、伊賀街道、初瀬街道を有し交通の要

衝として栄え、江戸時代には藤堂家の城下町、伊勢神宮参詣の宿場町として栄えてきました。

このような地理的、歴史的背景により京都・大和文化の影響を強く受けながらも独自の文化を醸成し、伊賀流忍術、俳句松尾芭蕉を生み出した町であります。



伊賀市

伊賀市の見所

上野城

伊賀市のシンボルは上野城、現在の天守閣は1935年に復元された木造再建城ですが、その石垣の高さは30mと国内有数の高さを誇ります。徳川家康は、支配を絶対的なものにするため藤堂高虎を伊賀に封じ、交通の要衝であるこの地に高い石垣の城を築城させ、豊臣方をけん制したと伝えられております。再建城とはいえ、築後70年を経過すると木造部分が黒光りし、戦後

建てられたコンクリート製とは違った城として風格を感じます。

また、30mある石垣の上から下を眺めると足がすくむ思いで、黒澤明監督の映画「影武者」のクライマックスのロケ地として使用されたのもうなずけます。



上野城



高石垣

忍者屋敷

忍者屋敷は伊賀市高山にあった普通の農家を昭和に入って移築したのですが、内部は「どんでん返し」「抜け道」「隠し戸」などの仕掛け・からくりをあちこちに施しています。この忍者屋敷ではなくノー（女忍者）が屋敷内に仕掛けられた数々の仕掛け・からくりを案内し実演してくれます。また、忍術体験館・忍者伝承館などもあり、土・日・祝日に開催される忍者ショーは迫力満点です。



忍者屋敷

伊賀忍者のルーツは地理的に近い大峰山や伊賀の四十九院などの山伏修験に発すると伝えられております。戦国時代には、情報収集や奇襲攻撃のプロとして活躍の場を広げ、信長が本能寺の変で討たれたとき、家康を無事誘導した「伊賀越え」も伊賀・甲賀の忍者部隊の働きだったそうです。

松尾芭蕉

芭蕉は1644年に松尾与左衛門の次男として伊賀市で生まれました。10代後半に上野（伊賀市）の町で盛んであった俳諧に興味を持ち、先輩俳人たちに手ほどきを受けます。19歳のころに侍大将藤堂新七郎家に奉公にでました。奉公先の跡継ぎの良忠は蝉吟と号し、京都の北村季吟に俳諧を学んでいたことから、俳諧好きであった芭蕉も良忠とともに俳諧に励んだといわれています。

その後、寛文12年（1672年）に、伊賀の俳諧仲間を集めて初めて編んだ、三十番俳諧合の「貝おほひ」を文学の神で連歌の神でもある上野天神宮へ奉納、俳諧師として独立するとともに江戸・深川に居を移して精力的に全国を行脚し、「野ざらし紀行」や江戸を出発し奥州北陸を経て美濃大垣に至る行程600里（約2,340km）に及ぶ紀行文「奥の細道」を書き上げました。

市内には芭蕉生家があり、裏庭には三十番俳

諧合「貝おほひ」を編集した釣月軒が建っています。この釣月軒は芭蕉の書斎で「貝おほひ」を執筆した文学遺跡です。

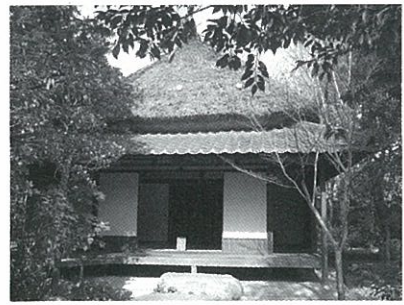


芭蕉生家

蓑虫庵

芭蕉五庵と呼ばれる芭蕉にゆかりの草庵がこの地域にありました。その中で唯一現存するのが蓑虫庵です。

1688年（貞享5年）3月4日に芭蕉の門弟である服部土芳が庵を開き、些中庵（さちゅう庵）と名づけましたが、帰郷していた芭蕉が1週間後に庵開きのお祝いに訪れ、祝いに「みのむしの音をききにこよ草の庵」の句を贈ったことから、上五の「みのむし」を取って蓑虫庵と呼ばれるようになったそうです。



蓑虫庵

庭内には、芭蕉の代表句「古池や蛙飛びこむ水の音」をはじめとする句碑が建ち並んでいます。小鳥のさえずる声や、四季折々の花が咲きそろう閑寂な庭内では、わび・さびの世界を感じることができるのではないのでしょうか。



句碑（古池や蛙飛びこむ水の音）

（株式会社 藤野鉄工所
三重青山工場 黒木 建三）